

昭和30年から会創立
昭和39年 11月 初刊
会 長 細倉涼太
事務局 大江弘文

☆ 伊東稔浩さんからお手紙を頂きましたので
ご紹介致します。

「県都静岡市の自覚」

城北公園の相撲場の施設充実について、相撲連盟のメンバーが子供達の為に、活動していただいていることに、心から敬服を致しております。

野球やサッカーに比べて全く地道なスポーツではありませんが、稽古で培った成果は、子供達が成人して大人になっても必ずや役に立つものであります。小生も高校時代の相撲部在籍が大きく社会人としての柱になっていることが心の支えであります。

そうした事への土俵は大切な鍛錬の施設であることは誰しもが認められる事と思います。

かつて常磐公園にあった土俵で20代の頃稽古をさせていただいたことが、今の私であると自認いたしております。

土俵の横には風呂場もありました。稽古後にひと風呂浴びて土で汚れた身体と汗を流したすがしさが今でも忘れられません。

城北公園の土俵には温水シャワーの施設がないことについて、今年度中にその設備を充実させるように働きかけております。遠くから来てくれる選手諸君にもきつと喜んで頂けることと思います。

乞うご期待を！

伊東稔浩

「人に負けるな」 伊東稔浩 著

◎ 昭和四十一年三月四日（独立＝伊東ビル発足）

両親から「お前のやることにはお前自身の責任であるとは云え、私たちが死ぬまでは子どもに対し親としての責任もある以上、この際、名古屋を引き払って静岡に移ろう」ということとなり、両親、妹も静岡に移り住み、妹は静岡英和短大に入学ができ、私も三月には菱産スレート（株）に退職届けを出したのです。

三月四日に株式会社伊東ビルが資本金五〇万で設立発足したものの、小さな船に荷物を一杯のせて、今にも沈みそうな船出と同じ鉄筋コンクリートならぬ借金コンクリートであったのです。失敗は断じて許されま

鞠子路や芭蕉伝説梅若葉 岩崎 安次
球児らの気合い揃ひし冬田道 高橋 璋
曆より唱歌流れる紀元節 加賀美 幸
一村を囲みて広き冬田かな 名田 幸一
白鷺の孤高映えるや水温む 佐藤 康紀
紅梅の一枝押して厨窓 永田 峰雄

饒舌も寡黙も居りて日向ぼこも

牧田 秀峰

せん。血の小便がでる苦勞を信じたことはなかったのですが、いざ自分自身が体験してみると、不眠不休というよりもむしろ眠ることが怖くなってくるような気持ちでありました。

スタートをしてからの二年間は、本当に苦しい資金繰りが続き、両親にも心配以上の心配をかけたことに深く後悔することが何度もありました。苦しい時に自分で自分にムチ打つ言葉が「人に負けるな」「己に負けるな」人にできて自分にできないはずはないんだと毎日息もつかせぬ戦いでもあったのです。私の弟も加わり「企業は人なり」という諺通り中学時代、生徒会活動を共にした同級生をはじめ、多くの優秀な社員に、その後は企業の拡張も順調に延びて行き、昭和四十六年には海外にも進出、苦節十年の間に大きく成長してまいりましたが、この十年間は永くもあり又、短い十年でもありました。

戦争↓終戦後の混乱期↓戦災復興↓経済成長時代↓石油ショック迄の私の人生の前半は、青春のない、めまぐるしいばかりの青春期でもあったのです。

又、青年会議所においても、昭和四十年入会以来四十三年＝ファミリーボクサー、四十四年には二十八歳で副理事長、四十五年＝運営委員会委員長、四十六年＝指導力開発委員長、四十七年＝環境問題委員会委員長を歴任、私の青年会議所は経済人としてだけではなく、社会人として人間形成への道場でもあったのです。（続く）

H30年度ちから会会費納入誠に有難うございます。

上杉隆信

（敬称略）